

大林組の自然関連のリスク・機会

大分類	小分類	依存／影響	リスク・機会 【対象カテゴリ】	対応策	発生可能性	時間軸	関連ページ
移行 リスク	政策	生態系の利用・攪乱	【調達原材料(鉄鉱石、石炭、石灰石)】 原材料採取地における採取後のアフターケア(埋め戻し、植林など)が一層求められ、調達コストが増加	・サプライチェーンエンゲージメントの強化によるサステナブルな調達体制の構築 ・トレーサビリティが確保された資材や資源保全・人権配慮などを満たす認証材の利用促進 ・資源循環に資するリサイクル資材・代替資材に関する技術開発とその利用促進 ・建設廃棄物のリサイクル率向上など建設事業におけるサーキュラーエコノミーの推進 ・木造・木質化建築などネイチャーポジティブに寄与する設計・施工技術の確立およびサプライチェーンの構築 ・伐採期を迎えた国産木材について、サプライチェーン全体でのサステナブルな利用や適切な森林管理による国内外の森林資源の保全 ・ネイチャーポジティブ、グリーンインフラ関連の技術開発と利用促進	中～高	中～長期	a, b, c, d, e, g, h, j, k
			【調達原材料(砂)】 原材料採取地における自然保護・規制強化により、調達先変更や代替資源の探索などが必要となり、調達コストが増加		高	短期	
			【調達原材料(木材)】 木材調達に関する自然保護・規制強化により調達先の変更や調達コストが増加		中	中～長期	
		GHG排出	【調達原材料(鉄鉱石、石炭、砂、石灰石)】 炭素税導入による原材料調達価格への転嫁により、調達コストが増加		中～高	短～長期	
			【調達原材料(木材)】 GHG吸収源としての森林保護政策の強化により、木材の流通量が減少し、調達コストが増加		中	短期	
		レピュテーション	【調達原材料(砂、木材)】 原材料採取地における生態系へのインパクトが大きい場合や合法性が確認できない調達が行われた場合、レピュテーションが低下		中	短～長期	
	市場	生態系の利用・汚染物質・固形廃棄物	【設計・施工(建築、土木)】 ネイチャーポジティブの高まりにより、施工中の現場周辺における環境モニタリングがより一層求められ、モニタリングや環境管理のコストが増加 また、施工や構築物そのものによって周辺環境の変化が生じることで、自然調整機能の損失に対応するコストが発生	・環境負荷を低減・除去する工法や管理技術の確立で、競争力向上 ・企画から解体の各フェーズでの生物多様性の定量評価・環境モニタリング技術および関連技術の開発を促進 ・ネイチャーポジティブやグリーンインフラに資する技術開発を推進し、ステークホルダーへの情報発信や顧客への技術提案を積極的に実施	中	中～長期	a, b, c, d, e, g, h
物理的 リスク	慢性	供給サービス/生態系の利用	【調達原材料(鉄鉱石、砂)】 建設事業における主要調達資材の資源枯渇により、代替資源の探索や新たな工法・技術の開発が必要となり、調達コストの増加や事業規模が縮小	・資源循環に資するリサイクル資材・代替資材に関する技術開発とその利用促進 ・サステナブルな代替資源やネイチャーポジティブな資源活用に資する工法・技術の開発推進	高	短～長期	a, b, c, d, e, g, h, j, k
	慢性	水の使用	【設計・施工(建築、土木)】 水資源の枯渇による水の使用制限により、建設事業への支障やコストが増加	・水の循環利用など水使用量が少ない工法・施工技術の確立 ・水ストレスマップなどを利用し、水資源の利用制限や枯渇地域を事前把握し、施工上の水リスクを管理	中	中～長期	c, f
	急性	生態系の利用	【設計・施工(建築、土木)】 自然災害の多発・激甚化による建設現場における自然関連被害の増加	・建設機械の遠隔操作など災害対応・復旧のための技術開発 ・サプライチェーンとの強固なネットワーク構築による災害時の当社の事業継続能力の強化	高	短期	i
機会	市場		【設計・施工(建築、土木)】 ネイチャーポジティブ・グリーンインフラのニーズの高まりにより、事業機会が拡大	・自然共生や資源循環に配慮した設計・施工の実施 ・建設廃棄物のリサイクル率向上など建設事業におけるサーキュラーエコノミーの推進 ・ネイチャーポジティブやグリーンインフラに資する技術開発を推進し、ステークホルダーへの情報発信や顧客への技術提案を積極的に実施	中	中～長期	b, c, e
	レピュテーション		【設計・施工(建築、土木)】 環境負荷の低減・除去に資する工法・管理技術やグリーンインフラ対応技術の認知の高まりによるレピュテーションの向上		中	中～長期	
		資源効率/自然資源の持続可能な利用	【設計・施工(建築、土木)】 サステナブルな木材の活用技術ニーズが高まり、事業機会が拡大	・木材の利活用において、OBASYASHI WOOD VISIONのもと、最適なサプライチェーンを含めた循環型モデル（Circular Timber Construction®）の構築をめざし、川上（植林・育林）から川中（加工・調達）、川下（建設、発電、リユース・リサイクル）までの3つのフェーズで、技術開発および事業化を推進	中	中～長期	b, e, h